

# 総合防犯設備士試験 科目Ⅳ

## 科目Ⅳ解答例



次の説明文を読み、①～⑤の空欄を埋め、完成させよ。

1. 総合防犯監査とは、防犯対策がリスクの評価に基づいて適切に整備・運用されているかを、独立かつ専門的な立場の監査人が検証及び評価することによって( ① )することである。
2. 防犯対策の評価とは、単に防犯設備が機能的、性能的に必要な条件を満たしているかどうかをハード面とともに、( ② )、運用管理体制の維持、利用者の防犯意識の醸成などといったソフト面の評価も含む。
3. 総合防犯監査を遂行するには、まず、被監査組織内において、( ③ )を有する統括責任者を定める必要がある。
4. 総合防犯監査に用いる主な監査技法には、レビュー、( ④ )、インタビュー、視察などがあり、監査の実施内容に合わせて適切な方法を選択する。
5. 監査人は、監査調書及び監査の証拠に基づき、被監査組織に対する( ⑤ )を含む監査報告書を作成する。

## 【解答欄】

①	勧告あるいは提言
②	運用管理規程の策定と見直し
③	総合防犯監査に関する責任と権限
④	アンケート
⑤	指摘事項及び改善案

総合防犯ソリューションは、総合防犯設備士が行う防犯コンサルティングの内容の中心となるものである。  
その3要素と説明文を記入例にならって記せ。

## 【解答欄】

3要素		説明文
①	分析力	依頼主の要望の聴取や防犯診断を行うこと。
②	洞察力	依頼主が気づいていない課題や本質的な課題を見抜く能力である。
③	構想力	総合的観点で対策を構想し、依頼主の要望と顕在的および潜在的な課題をまとめて解決し、適切な防犯環境を構築する能力。

警察庁では、「安全・安心まちづくり推進要綱」を策定し、治安の向上を推進している。各都道府県警察は、地方自治体、地域住民、事業者等と連携し、地域の防犯環境の改善に継続的に取り組んでいる。

「安全・安心まちづくり」は、街や建物・施設の構造等を犯罪抑止に配慮したものにするハード面の対策と、地域の住民や事業者による自主的な防犯パトロール、防犯に関する広報啓発や防犯教室等のソフト面の対策を効果的に組み合わせて実施する必要がある。

そのためには、各地域の犯罪発生情報等を活用することにより犯罪が発生する場所、時間等の特徴を把握するとともに、自治体、地域住民、事業者等が効果的な防犯対策を推進することができるよう助言すること、まちの在り方についてハード面、ソフト面を通じ防犯の観点から問題がないかを調べる防犯診断を行うこと、警察はもとより地域住民等が行う防犯対策の内容や取組状況等についても積極的な広報を実施し、関係者全員の防犯意識の醸成を図ること、まちづくりのための日常的なコミュニティ活動を推進すること等が重要である。

近年、準暴力団に加えて、新たな特徴を有する犯罪集団「匿名・流動型犯罪グループ(トクリュウ)」が台頭し、治安対策上の脅威となっている。SNS や求人サイトを通じるなどして緩やかに結びついたメンバー同士が役割を細分化させ、メンバーを入れ替えながら多様な資金獲得活動を行うため、組織の把握やメンバーの特定が容易ではないという特徴を有している。新たな犯罪集団は、こうした匿名性、流動性を利用し、特殊詐欺、強盗・窃盗等の様々な事案に関与して資金を得ている。

とりわけ、令和6年夏頃から首都圏を中心に「闇バイト」を悪用した強盗事案が連続的に発生したことで、国民の体感治安が大きく損なわれる状況となった。

住宅に押し入って住人を縛り、鈍器で殴るなどして強盗殺人事件にまで及ぶケースもみられ凶悪化した事件が続いた。リフォーム業者や水道業者などを装い、家族構成や資産状況、室内の間取りなどを聞き出し襲撃先を決めるための情報を得て高齢者宅を狙う事件が相次いだ。

〇〇県△△市でも、減少を続けていた刑法犯認知件数がここ数年、若干の増加傾向を見せている。△△市の昨年の犯罪件数は、オートバイ盗1件、自転車盗9件、空き巣・忍込み・居空きが各1件ずつ、出店荒し2件、特殊詐欺2件、その他刑法犯2件が公表されている。

ここ半年余りは、市役所の職員や警察官を名乗る不審な電話を受けたり、屋根修理業者だと名乗る怪しげな訪問があったりという事案も確認されている。

「総合力で、防犯力強化」をスローガンに地域密着で活動している総合防犯設備士は、様々な防犯課題を総合力で解決する防犯対策の専門家である。

〇〇県警察本部生活安全課は、地元自治体と共同で総合防犯設備士A氏に「まちの防犯診断」業務を依頼した。この度の依頼内容は、一連の「闇バイト強盗事件」を背景に、〇〇県△△市××町会の防犯環境について、せい弱性や改善策などを専門家の立場から意見を伺いたいとのことであった。

防犯診断日当日は、生活安全課の警察官1名、△△市役所の地域安全対策課の職員2名、××町会の町会長と町会有志5名と総合防犯設備士A氏の10名で××町会の防犯診断を実施した。

以下は、総合防犯設備士 A 氏が実際の視察とインタビューにより得た情報を簡潔にまとめた現地調査概要である。

#### 【現地調査概要】

調査対象の街は、大きくエリア分けをすれば、低層の住宅街、駅周辺の商店街、学校、公園というエリアで構成されている。

住宅街は、都市の喧騒から一步引いた場所に広がる閑静な住宅地だ。手入れの行き届いた庭と落ち着いた外観の戸建住宅が立ち並んでいる。旧道沿いの歴史を感じさせる広い敷地の木造住宅地と近年建てられたモダンな新興住宅地とが同じ町会に存在している。

街の西側には交通量の多い国道が走っており、朝夕には渋滞が発生することもあるそうだ。その近くでは大型車の音が聞こえる一方で、街中にはいくつかの児童公園が点在し、子供たちの遊び場となっている。しかし、公園の植栽が伸び放題になっている箇所があり、ベンチの周りには空き缶やレジ袋に入ったゴミが放置されたままになっていた。

公園のみならず一般の戸建住宅でも見通しをさえぎるほど植栽が伸び茂っている住宅があった。

古い住宅の中には、玄関横のインターホンがカメラ付きではない住宅も見受けられた。玄関の扉と枠の隙間からデッドボルトが見える構造の玄関ドアがあった。また、敷地境界のブロック塀や生垣が周囲からの視線をさえぎっている住宅もあった。

街の一角には空き家が数件確認された。その周辺では壊れた家具や放置されたバイク、不法に投棄されたゴミ、歩道の隅にはペットボトルやタバコの吸い殻が捨てられていた。

街には、小学校、中学校、公立高校が揃っていて、朝夕には制服姿の子供たちが通学路を歩いている。近隣住民があいさつを交わしながら犬の散歩をする姿も見られ、どこか懐かしい温もりを感じさせた。

最寄りの鉄道駅の周辺には、昔ながらの商店や飲食店、新しくできたカフェ、手軽なファミリーレストラン、コンビニエンスストア、地元の常連客で賑わう居酒屋などが軒を連ね、賑わいを見せている様子であった。

住宅街とは異なり、商店街は建物が密集して建物間の隙間は狭く、路地に入ると周辺から死角となる場所があり、タバコのポイ捨てやスプレーによる落書きが散見された。

また、雨どいや配管を利用して上階の窓にアクセスできそうな箇所や電柱がすぐ横に立っているため電柱から上階のバルコニーにアクセスできそうな箇所もあった。

××町会全般的な印象は、新しさと古さが混在する静かな雰囲気のある町会であったが、街の一部（商店街や空き家周辺など）には、地域社会の目が届いていないと感じさせ、防犯環境に悪影響を及ぼしている雰囲気を感じた。

以上が、総合防犯設備士 A 氏の現地調査の概要である。

## 設問 1

「安全・安心まちづくり」は、個別の住宅だけが対策を施すのではなく、町会全体として犯罪が起きにくい防犯環境づくりに取り組むことで効果は高まる。

町会全体としての防犯環境向上策を主にソフト面で考え、「防犯 3 原則」それぞれについて具体策と得られる効果を記せ。

### ① 領域性を高める方策について

#### 【解答欄】

具体策	町会内の挨拶や声掛けの推進／犬の散歩／掲示板の活用／ 防犯看板の設置など
効果	地域住民が「ここは我々のまち」という帰属意識・共同意識を持ち、心理的に犯罪企図者が入りにくい、居づらい雰囲気をつくる。掲示板の活用等で防犯活動には力を入れていることを内外に示す。これらの活動により防犯環境（犯罪抑止環境）は高まる。

### ② 監視性を高める方策について

#### 【解答欄】

具体策	植栽、樹木の剪定／通学路や商店街などの街頭防犯カメラ／防犯灯など
効果	心理的、物理的に見えやすい、見通しが良い雰囲気をつくり、犯罪行為が目撃されるかもしれないと犯罪企図者に感じさせることにより、防犯環境（犯罪抑止環境）は高まる。 商店街などで周辺からの死角になるような場所があれば、防犯カメラや防犯ミラーなどで見えにくさを補完する。そのことで、防犯環境（犯罪抑止環境）は高まる。

### ③ 抵抗性を高める方策について

#### 【解答欄】

具体策	スプレーによる落書きや不法投棄・ポイ捨ての早期除去／鍵かけ運動／ ゴミ出しルールなどの順守など
効果	些細なルール違反・秩序違反を軽視すれば地域社会の治安悪化につながるという「割れ窓理論」の考え方を町会内で共有し、落書きやゴミの不法投棄などには早期に対応する。 整理・整頓・清掃の行き届いたまちづくりを推進することや犯罪情報、防犯情報を地域住民と共有することで地域社会全体の防犯環境（犯罪抑止環境）は高まる。

設問 2

個別の住宅(戸建住宅・低層住宅)の防犯環境向上策を主にハード面で考え、「防犯 3 原則」それぞれについて具体策と得られる効果を記せ。

① 領域性を高める方策について

【解答欄】

具体策	センサ付きライト／防犯灯／警報ベル／防犯砂利／囲障など
効果	私的領域を明確にし、不法侵入者が嫌う音や光で、領域内に侵入しにくい雰囲気をつくる。そうすることで犯罪企図者は「この家は防犯意識が高い」と感じ、精神的重圧がかかり犯行を諦めさせる効果は高まる。

② 監視性を高める方策について

【解答欄】

具体策	テレビドアホン／防犯カメラ／見通しの良いフェンスなど
効果	犯罪企図者は概ね逮捕されたくないという心理を持っている。顔を見られたり、録画されたりするのを嫌うので精神的にプレッシャーを与えることになり犯行を諦めさせる効果は高まる。

③ 抵抗性を高める方策について

【解答欄】

具体策	ワンドアツーロック／補助錠／面格子／忍び返し／防犯ガラス／防犯フィルム／ドアチェーン／ドアガード／ガードプレートなど
効果	不法侵入者は侵入するのに時間がかかることを嫌う。侵入に 5 分以上かかると 7 割の侵入窃盗犯は諦めるといわれている。簡単には侵入できない状況をつくることで犯行を諦めさせる効果は高まる。

### 設問 3

近年の闇バイト強盗事件を考慮すると、犯罪の未然防止には、まずはターゲットにならないこと、そして侵入に時間をかけさせること、が重要なポイントとなる。

ターゲットにならないために日常の心構えについて基本的な考え方を述べよ。

#### 【解答欄】

匿名・流動型犯罪グループには、情報収集の役割を担っていると思われる者がいる。彼らはリフォーム業者や水道業者などを装い、家族構成や資産状況、室内の間取りなど出来るだけ多くの情報を得てターゲットを決めようとしている。不審な訪問者や不審な電話には対応せず、内部の情報を洩らさないようにしなければならない。

また、宅配業者などを装った不審な訪問者が強引に玄関ドアを開け不法侵入してくるという事案も発生している。すぐに玄関ドアを開けるのではなくテレビドアホンで対応したり、ドアチェーンやドアガードをかけておき、強引に玄関ドアを全開状態にされないように注意する必要がある。

日頃から、領域性・監視性・抵抗性を高めておくことで、「この家は防犯意識が高く、犯罪が成功しそうな雰囲気が無い」と下見など情報収集をするとき犯罪企図者に感じさせることが重要だ。